

-大学院歯学独立研究科-
第 124 回 中間発表会 プログラム

大学院学生等が、これまでの研究成果を発表します。
どなたでも聴講できますので、多数の参加をお待ちしております (聴講申込不要)

場 所：実習館2階 総合歯科医学研究所セミナー室
日 時：2023年2月22日(水) 17時25分 開会

-2023年2月22日(水) -

No.	発表区分・予定時間	演題名・発表者	審査委員
	17:25	開会挨拶 平岡研究科長	
1	[中間] 17:30~18:00 司会:吉成教授	「モロッコ王国における侵襲性歯周炎患者の唾液細菌叢の解析」 池田 岳史 4年 健康増進口腔科学講座 口腔健康分析学	主査:平岡特任教授 副査:平賀教授 :音琴教授

発表内容の要旨(課程博士)
Abstract of Presented Research (For the Doctoral Course)

学籍番号 Student ID No.	ID#G 1901	入学年 Entrance Year	2019	年 Year
(ふりがな)	いけだ たけふみ			
氏名 Name in Full	池田 岳史			
専攻分野 Major Field	口腔健康分析学			
主指導教員 Chief Academic Advisor	吉成 伸夫			
発表会区分 Type of Meeting	中間発表会 Midterm Meeting			
演題名 / Title of Presentation				
モロッコ王国における侵襲性歯周炎患者の唾液細菌叢の解析				
発表要旨 / Abstract				
<p>侵襲性歯周炎 (AgP) は若年者に多く発症し、家族内集積性、少ないプラーク付着、急速かつ限局的な進行を特徴とする歯周炎である。プラーク中で検出率の高い <i>Aggregatibacter actinomycetemcomitans</i> が原因細菌として注目され、同細菌とAgPの関連性が多く報告されているが、AgPの病因についてはほとんど解明されていない。AgPの一般的な発症率は、0.05～0.1%と歯周炎の中では多くないが、地域によって有病率に差があり、世界の他の地域と比較し、北アフリカでは有病率が高いことが知られている。</p> <p>今回、全人口の7.6%がAgPに罹患している、モロッコ王国のラバトにあるモハメド5世大学の学生130名 (AgP患者:65名、健常者:65名)をの唾液微生物叢を解析、評価した。AgP罹患の有無は、歯周組織検査で3 mm未満の臨床的アタッチメントロスのカットオフ値とした。被験者から安静時唾液サンプルを採取し、MORA-EXTRACT®キットを使用して細菌DNAを抽出した。16S rRNAメタゲノム解析は、北海道システムサイエンス社のIllumina MiSeqプラットフォームを使用した。1,647の口腔細菌の16S rRNA遺伝子の各シーケンスデータはBLASTおよびHOMD(Human Oral Microbiome Database)を用いて97%以上の相同性をもって細菌種、属の同定を行った。統計解析はt検定を用い、P<0.05で有意差ありとした。</p> <p>AgP患者の唾液で <i>Firmicutes</i>、<i>Bacillales</i>、<i>Streptococceae</i>、<i>Staphyrococcaceae</i>科が有意に多く検出された (P < 0.05)。これに対して、健常者の唾液では <i>Proteobacteriaceae</i>、<i>Gummaproteobacteriaceae</i>、<i>Lactobacillaceae</i>が有意に多く検出された (P < 0.05)。属レベルでは、<i>Bacillus</i>、<i>Streptococcus</i>、<i>Staphylococcus</i>属がAgP患者で有意に多く検出され (P < 0.05)、<i>Lactobacillus</i>、<i>Burkholderiales</i>、<i>Porphyromonas</i>属が健常者で有意に多く検出された (P < 0.05)。Shanon indexにおいて2つの群間で微生物の多様性に有意差は認められなかったが、クラスター分析では唾液サンプルは7つの異なるクラスターに分けられた。</p> <p>以上の結果より、今回のAgP患者唾液内細菌叢の解析で、群間の多様性に違いはなかったが、AgP群と健常者のそれぞれについて特徴的に多く検出される細菌属、細菌種が同定できた。これまで、AgP患者の歯周ポケットから高頻度で検出された <i>A. actinomycetemcomitans</i> はAgP患者の唾液で有意に高く検出されなかったことは、本細菌のニッチとして唾液は含まれないことを示唆している。今後、歯周ポケット内細菌叢の比較研究を行い、AgPの細菌学的特徴について明らかにしていく予定である。</p>				